

長岡開府四〇〇年のあゆみ

# 長岡開府四〇〇年のあゆみ

## 目次

長岡開府四〇〇年のあゆみの発行によせて ..... 4

I. 長岡開府と長岡藩主牧野家  
常在戦場の精神を受け継ぐ 長岡藩主牧野家十三代の治世二百五十余年 ..... 6

II. プロローグ 長岡のあけぼの  
火焰土器・八幡林遺跡・長尾景虎… 長岡の個性が生まれる ..... 8  
堀氏から牧野氏へ 長岡開府の前夜 ..... 10

III. ふるさと長岡四〇〇年のあゆみ  
市民協働の萌芽 長岡城の完成 (1618-1700) ..... 12  
雨龍の殿様の登場 今につながる文化・教育・産業 (1701-1800) ..... 14  
激動の長岡を力強く生きる 自然との共生 (1801-1868) ..... 16  
ムラを支えるリーダーの胎動 義民の面影を各地域にみる (1618-1800) ..... 18  
地域の宝のルーツ 北前船・牛の角突き・良寛 (1801-1868) ..... 20  
北越戊辰戦争 激しい戦火と灰燼に帰した長岡 (1868) ..... 22  
敵と味方の北越戊辰戦争 各地域の戦禍とその傷跡 (1868) ..... 24  
米百俵の精神と国漢学校 未来をつくる、人をつくる (1869-1870) ..... 26  
殖産興業への道程 歯をくいしばる明治の長岡人たち (1869-1911) ..... 28  
長岡名所を全国発信！ 絵葉書にみる大正モダン長岡 (1912-1926) ..... 30  
日本海と太平洋は長岡が結ぶ 博覧会にかけた夢 (1927-1945) ..... 32  
長岡空襲の記憶 昭和二十年の夏を忘れない (1945) ..... 34  
高度経済成長の時代が到来 戦後復興と連続する自然災害との闘い (1946-1975) ..... 36  
開通！高速道路と新幹線 高速交通網の広がり (1976-1988) ..... 38  
地域の個性が奏でる豊かなハーモニー 復興と振興、その先の未来へ (1989-2018) ..... 40

IV. エピローグ 新しい米百俵  
次の百年へ 新しい米百俵 未来へ向けた人づくり・まちづくり ..... 42

付編 長岡市年表 ..... 44  
主な参考文献 ..... 48

### 表紙説明

水島爾保布画「昔の長岡十二ヶ月の中 六月 蔵王大祭囃屋台」の図  
(長岡市立中央図書館所蔵)

江戸時代、旧暦の6月15日は蔵王大祭で長岡の町は賑わった。この図は前日の6月14日の蔵王大祭宵祭に長岡18か町から繰り出されるなかの神田町のひときわ目立つ大船屋台を描いたもの。図中の帆船形が特徴でなかに神田囃子を奏でる氏子が乗っていた。神田の大船屋台は翌15日の大祭の際には18か町の先頭となって、大手門から長岡城内に入った。見物の武士、農民、町人たちが一緒に祭を楽しむ様子が描かれている。



### 凡例

- 『長岡開府四〇〇年のあゆみ』は、平成30年(2018)の長岡開府400年を記念して、長岡市域の主な歴史と文化を年表と図版などで紹介する。
- 本文の記述は、原則として常用漢字および現代かなづかいを使用した。固有名称や専門用語については、必ずしもこの原則によるものではない。
- 年号の表記は、原則として和暦を用い、適宜西暦を( )で併記した。
- 読みにくい固有名称や歴史用語は、必要に応じてふりがなを付した。
- 本文中には、差別的な用語や表現を使用している場合もあるが、これは史実に基づいて客観的に研究する立場から使用したもので、これらの差別を容認するものではない。
- 人物に対する敬称・敬語は、原則として省略した。外国人名はカタカナで記した。
- 本書の性格上、必要な場合を除き、本文中には具体的な根拠を示さなかった。主な参考文献は、巻末に示した。

## 長岡開府四〇〇年のあゆみの発行によせて

私を含め皆様はふるさとのほんとうの姿を知っていますか。自然や歴史・市民生活・民具・民俗・産業考古などに隠れた美しさが、充滿しているふるさとを。私たちの住む信濃川中流域の悠久の大地をふるさとと称しています。そこに住んだ私たちの祖先は、あらゆる知恵を駆使して創造を生みつけてきました。平和も戦争も、災害の受難も享受してきました。それがゆえに人の個性も無意識のなかに埋没していたのかもしれませんが。しかし、よくみると、隠された個性が長岡の歴史や生活のなかにキラキラと輝いていることを発見します。

今年が開府四百年です。戦国武将の牧野氏が入封して、いままで息づいてきていた城下町に常在戦場の精神を根づかせています。サムライも農民も商人たちも、その価値観で生活を創造させてくらししてきたといえましょう。江戸期における長岡の産業都市のイノベーションも、常在戦場の精神から生まれているといつて過言でないと思います。

そして、人づくり教育の米百俵の精神や互尊思想は、戦災や天災を乗り越えてきた長岡の人びとの魂といっても良いでしょう。

近隣の市町村と合併をくりかえし、地域の宝が長岡に入ってくるたびに、長岡の文化性が高まっています。異なった個性が交じり合い新しい共生が始まります。矛盾を同居させた文化は、多様性を生んでいます。

このように新しい思想を創り出してきた長岡の人びとの本当の姿を、二〇一八年に長岡に住む人びとは知って誇りに思うことが大切です。それが私たちのふるさとを創ってきた人びとの祖霊に対する感謝の気持ちだと思っています。

この小誌は長岡の歴史を学ぼうとする若者たちが手づくりで編んだものです。図版と簡潔な説明で、開府四百年の記念誌にしようとしたものです。技術革新が急速に進展する現在、世の中の何が変化しているのか、どのように変わっていくのか、私たちがしっかりと把握しながら、この変化に対応していく必要があります。

米百俵の精神が息づく長岡として、次の百年を作り出す人材と産業を育成するとともに、将来のための投資を「新しい米百俵」として積極的に行ってまいります。

未来を切り開く若者たちとそれを支えてくれる市民の皆様の勇気と知恵をもって、次の百年に向けて新しいスタートをきりましょう。

本書の発刊に御協力をいただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

平成三十年（二〇一八）五月

長岡開府四〇〇年記念事業実行委員会 会長 磯田 達伸

